

○事業所名	大分こども発達支援センター やすらぎ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和6年11月11日		～ 令和6年12月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	令和6年11月11日		～ 令和6年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋が広いいため、それぞれのこどもの空間を確保することができる。 ・部屋の作りがシンプルなため、集団の状況に合わせてレイアウトを変えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カーペットやテーブルなどを設置し、活動内容や子どもの状況に合わせた過ごし方ができるようにしている。 ・子どもが安心して安全に過ごすことができるよう、活動する場所や食事をする場所等、その時の状況に合わせて変更している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味や遊びが広がっていくように、おもちゃを充実させていく。 ・身体の大きさや身体的状態に合わせた高さや形状の椅子や机などを使用することで、個人にあう姿勢で活動できるようにしていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・併設しているつばさ学園の園庭や砂場で遊ぶことができる。 ・車通りが少ないため、気候が良い時は散歩に出かけ、自然や季節を感じるができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気候が良い時は、子どもの体調や状況に合わせて身体を動かしたり、感覚遊びをしたりしている。 ・園庭の砂場やシーソーなどでの感覚遊びや散歩で身体を動かすことなど、子どもに合わせて外での活動を楽しむことができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、園庭での外遊びや散歩を行うことで、感覚遊びや運動遊びを行うことができるようにしていく。 ・気候や体調により外遊びができない時は、粘土やスライム、トランポリンやハンモックなど室内でできる感覚遊びを行う。 ・自然や季節を製作などを通してさらに深めることができるようにする。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・配置されている職員の勤務時間が同じため、朝礼や職員会議に全員が出席して子どもの支援に対しての情報共有ができる。 ・保護者による送迎のため、保護者からの情報を複数の職員で直接聞くことができ、登園や降園時の保護者や子どもの様子についても共有することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼には、職員が全員参加して前日の振り返りをしている。 ・登園や降園の時は、職員全員が保護者や子どもに声をかけるようにし、変化がないか意識して関わるようにしている。また、気になることがあれば共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼時に、関わっている職種ごとに意見を出し合うことで、子どもの理解を深めていく。 ・保護者から聞いたことや子どもの様子について得た情報は、必ず朝礼時に伝えて共有する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の老朽化が進んでおり、床や壁に亀裂や汚れが目立つ場所がある。 ・建物の構造がL字になっているため、死角がしやすい。 ・やすらぎのフロア内にトイレがないため、トイレトレーニングができていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築年数が経っており、仕方ない部分もある。 ・建物の設計上、仕方ない部分もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全上、問題がある場合は、速やかに上司に報告し対応してもらおう。 ・フロア内に死角ができないよう、職員が意識して立ち位置を考慮したり声かけを行ったりしながら安全管理を行う。 ・トイレトレーニングに関しては、保護者に事前に同意をもらうようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の事業を同時におこなっているため、時間によっては業務（医療的処置・バス送迎・排泄介助など）が重なることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日によって、それぞれの事業の利用人数に変動があることや、限られた職員で複数の事業をおこなっているため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの時間であっても、丁寧に支援することができるように、他部署との連携を図り職員の配置を適切に行うようにする。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・製作物や保育環境の整備、保護者への通信など直接処遇以外の業務をする時間が充分にとりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の勤務時間と開所時間に差がないため。 ・業務に優先順位をつけ、時間を有効に使うことができていない部分もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優先すべき業務を職員間で共有しておき、療育現場の状況を見ながら、可能な時はそちらの業務を行うようにする。 ・職員間で声をかけあいながら、業務を遂行していく。

事業所名 大分こども発達支援センター やすらぎ（児童発達支援）

公表日 令和7年 3月 1日

利用児童数

6/8

回収数 75%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6				様々なところをハイハイするので、床の清掃を今後ともよろしくおねがいします。	
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1	1	1	3		感染症対策などを踏まえ、他施設との交流は控えています。センター内の他事業所の子どもたちとの交流をイベントなどで行うようにしています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	2		2	研修会など開催されているかわからない。	今年度よりつばさ学園で家族支援プログラムが始まっています。今年度の開催状況を踏まえ、ご案内していきたいと思います。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	6					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	1	1	3	イベント開催時に、兄弟児も一緒に参加させてもらっている。	土曜日に開催しているイベントに、希望があれば保護者や兄弟児も参加できるようにしています。保護者や兄弟児同士の交流が出来る機会を積極的に作ることはできていないため、今後、検討していこうと思います。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4	1			1	相談があった時は、適宜適切な職員が対応するようにしています。状況によっては、体制を整えるようにしています。こどもや保護者へは、相談できる場についての周知や説明はなされていませんが、相談しやすい関係や雰囲気づくりを行うようにしています。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5			1		連絡帳や送迎時などの時間に、意思疎通や情報伝達を行うようにしています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	1		1		行事予定については、利用申込を通じてご案内をしています。 イベントの様子などについては、法人のホームページを通して発信するようにしています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5			1		感染症対策委員や危機管理委員を設置し、各マニュアルの作成を行っています。保護者への周知・説明については、今後取り組んでいきたいと思っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6					
	29	事業所の支援に満足していますか。	6					

事業所名 大分こども発達支援センター やすらぎ (児童発達支援)

公表日 令和 7年 3月 1日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	各事業の利用人数に配慮しながら、十分な空間を確保するようにしています。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	配置基準に基づいて適切に職員の配置がされています。また、安全を考慮し、必要があれば職員配置を多めにしています。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	部屋の構造がL字になっていて死角がでやすいので、職員間で声かけを行いながら、安全管理に努めています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	2	個別の部屋がないため、空間をパーティションで区切ったり、クールダウンのために離れた場所で過ごしたりしながら、安心して過ごすことができるように工夫しています。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	個人面談や朝礼などを通して、職員の意見等を把握する機会を設けています。	上司に相談したり連絡を取り合ったりしながら、個人面談などで上がった意見を現場も把握できるようにしていきます。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1		現在作成中です。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	厚生労働省より示されているアセスメントシートを使用し、アセスメントを行っています。	日々の行動観察においては、個人の記録を行っているが、アセスメントにつながる記録を意識できていないこともあるため、記録の取り方について職員間で確認していこうと思います。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	即時確認が必要な内容については、支援終了後に振り返りをおこなっています。その他の内容については、翌日の朝に振り返りをし、共通理解を図っています。	引き続き、翌朝の時間を有効に使って振り返りを行っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2	利用児の状況を踏まえ、必要な時は、相談支援専門員に情報提供を行ったり、相談したりしながら移行支援を行っています。また、移行先との連携については、見学に来ていただいたり書面や電話での情報提供をしたりしながら情報共有を行っています。	ご家族や移行先からの希望があれば、行っていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	3	同施設内の個別療法士や心理士、相談支援専門員などに適宜相談を行いながら、連携を図っています。	引き続き、必要があれば各専門職との連携を図っていきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		7		同施設内の他事業を利用している子どもとの合同イベントを月に1回開催し、交流を行うようにしています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5		つばさ学園において今年度より家族支援プログラムが開催されています。状況をみながら、必要があればご案内をしています。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	1	定期的には行っていませんが、ご家族や子どもに気になる様子が見られたり、ご家族から相談があったりした時は、面談や支援を行っています。	引き続き、ご家族や子どもの変化を見逃さないようにしながら、必要があれば面談や支援を行っています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	6	イベント開催時に、兄弟児や保護者にも参加してもらっています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	1	情報伝達については、伝え方やタイミングなど職員間で共有し、個別に対応するようにしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		行事は開催しています。地域住民を招待しての行事については今後検討していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	2	安全計画を作成し、年間計画や研修を行っています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7				